

## 東部教育事務所社教便り『社窓』



NO. 15

(平成23年12月)

### 「高知県婦人大会」

安芸市矢ノ丸1-4-36 東部教育事務所

TEL: 0887-34-3591 (幾井)

FAX: 0887-34-3592 (大井)

E-mail: 310304@ken.pref.kochi.lg.jp

11月29日(火)に高知県民文化ホール(オレンジ)で、第56回高知県婦人大会が開催されました。「安全・安心な地域社会の再構築をめざして～広めよう!おもしろいところでつなぐ活動の輪～」を大会テーマに県下各地からおよそ800名の婦人会員が集まり、研修を深めました。

#### ○ 開会式

尾崎知事、中澤教育長をはじめ多くの来賓の臨席のもと、本年度の努力目標が確認されました。

#### 平成23年度努力目標

「一人ひとりが生き生きと暮らせる社会の実現にむけて～新たな時代の地域婦人会活動を考える～」

- ① 私たちは会員同士で結び合い、よりよい社会づくりを進める。
- ② 青少年の健全育成、家庭生活並びに社会生活を刷新する。
- ③ 男女共同参画の実現とエンパワーメントを推進する。
- ④ 少子・高齢社会への支援と、安心安全のまちづくりを推進する。
- ⑤ 地球温暖化防止のため、日常生活を見直しCO<sub>2</sub>削減に努める。
- ⑥ 地域住民、消費者として、くらしの視点に立った活動を推進する。
- ⑦ 地域で防災対策を学習し、積極的に活動する。
- ⑧ 国際交流を深め、平和を築くための活動を展開する。
- ⑨ 北方領土返還要求の世論喚起に努める。

#### ○ 講演

高知県金融広報委員会の野原 強 会長より『高知県経済の活性化に向けて』という演題で講演が行われました。参加者からは、「話はちょっと難しかったけれど、数字を出してくれたので、分かりやすかった」という声が聞かれました。

#### ○ 県警音楽隊演奏とアトラクション

講演の後は、毎回参加者が楽しみにしているコーナーです。県警音楽隊のみなさんは、最新のヒット曲から懐かしのメロディまで素晴らしい演奏を聞かせてくれました。

昼食後のアトラクションでは、各ブロックと県連執行部から趣向を凝らした出し物が披露されました。地元の伝統的な盆踊りからマルモリダンス、AKB48まで、日頃の練習の成果が発揮され、会場は大いに盛り上がりました。

#### ○ 体験発表

大月町連合婦人会から『「地域の和」は資金づくり活動から』というテーマで体験発表がありました。今、県内多くの婦人会が直面しているのが活動費の問題ではないでしょうか。大月町婦人会では町内の催しに積極的に参加し、自分たちで作った物品の販売などを通して、資金づくりを行っている事が発表されました。

○ 金融・経済講演

テレビやラジオで活躍している生島ヒロシさんによる『人生を楽しむ秘訣～心と体と財布の健康～』と題した講演でした。高知県金融広報委員会が一般参加者を200人で募ったところ、600人近くの応募があり、急遽オレンジホールの2階も開放し、会場がほぼ満席という人気ぶりでした。

生島さんは、毎朝のラジオ放送に出演した多くの医療関係者の話やご自身のヘルスケア・アドバイザーとしての経験を話しされました。脳梗塞予防については、スクワットなどの実技を交えながら、また、震災の避難所でも大きな課題となった口腔ケアについては、お薦めの歯磨き器具を使いながら、それらの重要性について話をされました。

生島さんは宮城県気仙沼の出身で今回の東日本大震災の津波で妹夫婦を亡くされています。そのこともふまえながら、「やっぱり健康が第一です」と参加者に訴えていました。

○ 大会宣言・大会決議

最後に起草委員会より、大会宣言・大会決議が提案され、承認されました。(大会決議は割愛)

大 会 宣 言

いま、私たちは、経済の疲弊、政治不信、年金や医療などの社会保障制度の硬直化、悪化する環境問題などによって、将来への不安を募らせ、暮らしが揺らいでいます。さらに東日本大震災は未曾有の被害を我が国にもたらしました。

私たちは、これまでの地域と暮らしに根付いた取り組みや成果を引き継ぎ、地域社会の安定と持続可能な社会の発展をめざし、一人ひとりの絆を大切にされた地域づくりの先頭に立って、諸問題の解決に一層努めます。併せて東日本大震災からの復興に向けた取組を支援してまいります。

私たちは、本大会での成果を地域に発信し、直面する諸問題の解決のため関係機関への提言を行うこと、安全・安心な地域社会づくりを推進することを宣言します。

平成23年11月29日

第56回高知県婦人大会

生島さんの講演で2階までほぼ満席になった会場を見ながら、県の役員の方が、「昔は、婦人会の会員だけで2階までいっぱいでした。今は、1階も満席にはなりません。」としみじみとおっしゃっていました。多くの婦人会が会員の減少や組織の存続問題を抱えています。一方で、本年3月に改定された『こうち男女共同参画プラン』でも地域コミュニティや防災分野での女性団体の果たす役割の重要性がうたわれています。東日本大震災を経験し、“絆”について日本全体で考え直している今だからこそ、そのなかで婦人会活動がどんな役割を果たしていくべきなのか、努力目標にもある「新たな時代の地域婦人会活動」をもう一度考え直してみる必要があるのではないのでしょうか。